

セミの鳴き声が違うよ 刈谷市立富士松南保育園（愛知県刈谷市）

[4歳児]

ねらい 生き物に触れ、違いに気付く。

事例「園庭で遊んでいるときにN児がセミの抜け殻を見つけた」

<7月8日>

園庭でN児が見つけたセミの抜け殻を見て、M児とR児も「わー！セミの抜け殻だー！！」とのぞき込んで興奮していた。保育者が、「セミ近くにいるかなあ」とつぶやくと、M児が「セミ、まだいないよ。だって鳴いてないもん」と言った。保育者が「そうだね、まだセミの声聞こえないね」と言うと、N児は「セミ、どこに行ったんだろうね」と木の上を見上げた。「ねー、どこにいるんだろうね」と保育者が言うと、R児が「早くセミ捕りたいなあ」と微笑んだ。

この日から、外に出る度にM児とR児は「まだセミ鳴かないねえ」「まだかなあ」「抜け殻あるのに」と木を見上げていた。保育者が「なんでかなあ」と言うと、M児「セミ、ごはん食べに行ってるんじゃない？」保育者「そうだね、ごはん食べてるかもしれないね」R児「セミって木食べるし」と言っていた。



事例「園庭で遊んでいるときにN児がセミの抜け殻を見つけた」

<7月13日>

夕方、園庭で遊んでいると、突然セミの声が聞こえてきた。R児「あー！！セミ！！Mくん！セミだよ！！」と叫び、M児も「セミだ！！やったー！先生！セミ！」と声の方に走っていく。保育者も「本当だ！声がするね！どこだろう！？」と一緒に走っていく。園の裏の家の大きな木の方から声が聞こえてきて、M児「あっちだ！とれないなあ」と残念そうにしながらR児もしばらく木を見上げていた。「保育園の木にはまだいないかなあ」と保育者が言うと、中庭の木を見に行くが、声は聞こえず、「ここはないよ」とM児。保育者「保育園にも来るかな」M児「うーん・・・来るよ！明日来るんじゃない？」と言った。

事例「家の近くで鳴いていたセミ」

<7月16日>

朝M児が「先生、僕のお家の近くで セミがシャアシャアって鳴いてたんだよ。前はジージージェミだけだったのに」と教えてくれた。保育者が「へー、シャアシャアって鳴いてたんだ」と言う。M児「うん、シャアシャアゼミとジージージェミだね」保育者「外に行ったら先生もシャアシャアゼミの声聞いてみよう」M児「うん、探そう！」と言う。

戸外に出てセミ探しをすると、Y児とM児とR児は黙ってじっと木を見上げていた。保育者も黙っていると、Y児が「あ、シャアシャアっていった」と気付き、R児は「おれジージージェミって聞こえた」と言いながら探していた。捕まえようとした時に、逃げたセミが鳴いたのを聞いてY児は「今キャキャって鳴いたね！びっくりしたのかなあ」と言う。

次の日、Y児が「先生、僕のお家でジコジコって鳴くセミがいたよ」と言ってきた。

<考察>

N児が抜け殻を見つけたことをきっかけに、セミへの期待が膨らんで、特にR児とM児は毎日木を眺めたり抜け殻探しをしたりして、のように抜け殻があるからセミが現れるのではないかと期待をして待っていた。のように「なんでだろう」と投げかけることで、子どもがそこで立ち止まって考えるきっかけになるということを、子どもの姿から改めて感じた。

5日目にやっとセミが鳴いた時、子どもたちは目を輝かせ、真夏の暑い中、真っ赤な顔をして友だちや保育者に大きな声で知らせるR児とM児の姿があり、セミの声を手がかりに探した。しかし、セミの姿を見つめることができなかつたことで、更に鳴き声を頼りに探し続け、3日後に、のように8日、13日に聞いた声と16日に聞いた声の違いに気付いたのではないかと思う。R児は始め、「セミを捕りたい」という関心が強かったが、毎日毎日懸命に声を頼りにセミを探していたため、その声が耳に残っていたことで違いに気付くことができた。M児が声の違いに気付いたことで、R児も声を聞く姿が表れるようになり、Y児も声に関心をもつようになっていった。その後、セミの羽の色の違いにも気付くことができた。

みどころ

セミの抜け殻を見つけたことをきっかけに、4歳児なりに自らイメージを膨らませたり、感性を発揮したりして、セミを感じとり情報交換をしています。興味の対象に触れたり目の前にして観察したりすることができなくても、鳴き声に着目してこれほど興味を深めているので、その後更に様々な点でセミの違いに気付いていくことにつながることを期待できます。